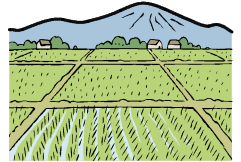


中原通信

文責 増永 善久



現代社会から

現在は、予測が難しい時代です。予測が難しい社会に踏み出す勇気
を子どもたちには持ってもらいたいと思っています。しかし、自分の
力だけでは、解決が難しいことが出てくるとも思っています。そんな
時に大切になるのは自ら「相談する力」ではないでしょうか。「自ら
言葉を発し、誰かに伝える」ことは、これからの社会で生活して
いくうえで、大切なスキル（技術）の1つだと思います。「もし、自分
で解決できないことなどが出てきたら、そのことを自分から誰かに
相談してみる」そういう力を子どもたちには付けてもらいたいです。
そして、私たち学校の職員は、気軽に相談できる信頼されている大人
でありたいものです。



学校行事より

◎田植え体験

テレビや新聞などで、田植え体験のニュースがいくつか報道
されています。本校でも後援会長の 鞭馬 公直 さんの全面的
な協力のもと、全校児童に中原保育園の園児さんも加わり、5
月23日に田植え体験がありました。5・6年生は慣れたもので、スピーディに苗を植える姿が見られ、ここ中原では、1度
きりの体験ではなく、体験が積み重なっていることを実感しま
した。また、子どもの感想には、「田植えが苦手だったけど、
楽しかった」「農家の大変さが分かった」「体験の準備をしてい
ただいたことに感謝します」などがありました。



◎日曜学校

6月15日の日曜日は、公開授業、救急救命法講座、親子ふれあい作業
などを実施した「日曜学校」でした。公開授業では、4月からの新しい学
級にも慣れた子どもたちの様子を見ていただきました。また、救急救命法
講座では、北部分署の皆さんを講師として迎え、「救命の連鎖の大切さ」、
「なぜ、胸骨圧迫をするのか」など、消防署の方からの話を聞いたあと、
保護者と子どもに分かれ、人形を使い、胸骨圧迫やAEDの使い方につい
て実際に訓練を行いました。訓練の最後には、「プールの監視の仕方」や
「プール使用は必ず2人組で」、「溺れるときは静かに溺れる」などの話も
聞けました。プール開きも終わり、学校として安全な水泳授業を進めてい
きます。また、親子ふれあい作業はたいへんお世話になりました。



◎集団宿泊教室

5年生は、町の3小学校連合で6月25
日～27日（2泊3日）の日程で、あしき
た青少年の家に宿泊する集団宿泊教室に
行きました。1日目は水俣の環境センター見
学など、水俣病についての学習、2日目は
マリン活動など、3日目は創作活動でした。

5月の報道で「水俣病に対し、まちがった
認識を教育機関の担当者が持っていた」とありました。持続可能な社会をめざす一員になってほし
い子どもたちにとって、今回の集団宿泊教室は、水俣病をはじめ、環境保全に関して正しく理解す
る機会となりました。これからも環境や人権を守るために、自分が携わる意識を高めていってほし
いと思います。

